
2020 年度活動報告書

准教授 ホアン・カストロ

学内での活動

授業

・芸術特論 C では、バイオテクノロジーとアート、生命らしい技術、スペース・アートの深い理解と、創造を促す授業をした。

・ライフエスノグラフィのプロジェクトでは、2020 年前期より林本店との共同研究を行っており、学生と林本店においてフィールドワークをした。また同プロジェクトでは 2020 年 12 月 9 日に明治大学から発酵科学の権威である中島春紫先生を招聘して、オンラインで「日本の風土と発酵食品」講演を企画し、実施した。

・2020 年 7 月 24 日に実施した Open House 2020 のイベント「ウェットウェア・アート」では、事前にアシスタントを担当する M2 と M1 の学生と意見交換を行い、オンラインでの公開にあたってのシステムの準備やデモンストレーション、衣装を含めたパフォーマンスについて計画した。結果約 42 名の参加者があり、双方向性のある活発なワークショップが実現できた。

個人研究・制作

・「FORMATA」-ハイブリッド・インスタレーション

FORMATA は、水のないミニ惑星における地球外的な、柔らかく、活動的で、自発的なエージェントである。このエージェントは、隕石中にも見つかった、地球外有機物に似たもので構成しており、ホルムアミド (HCONH₂) 中で変形し、能動的に動き、自己分裂する。

・「プロトエイリアン・プロジェクト」

2018 年から引き続き、久保田晃弘（多摩美術大学教授）、豊田太郎（東京大学准教授）と共に「プロトエイリアン・プロジェクト」の共同研究を行っている。

研究助成

・「ポスト・デジタル時代におけるウェットウェア・アート」科研費基盤研究 C（2018 年 - 2021 年）代表者

論文

- ・ “Non-terrestrial material agency”

2020年11月9日にジャーナル『Performance Research : 「マイクロパフォーマティビティ」』 Vol. 25 に論文 “Non-terrestrial material agency” を掲載。

- ・ “Searching for unfamiliar forms of life”

2020年10月29日にブラハ化学技術大学出版の書籍『ロボット100』に「Searching for unfamiliar forms of life」と題するエッセーを掲載。

学外での活動

展覧会

- ・ 作品展示「FORMATA」

2020年12月17日～25日、多摩美術大学アートテークギャラリーにて、プロトエイリアン・プロジェクトの研究成果、作品展示「FORMATA」を開催。

その他社会活動など

- ・ ライフエスノグラフィのプロジェクトにおける林本店との共同研究

ライフエスノグラフィのプロジェクトでは、岐阜県各務原市にある林本店と共同研究を行っている。

- ・ 県立博物館の見学&意見交換会

2020年7月18日に学生を引率して岐阜県博物館を訪問し、展示やバックヤードの見学を行った。担当学芸員と展示やコレクションの保存管理や情報公開について意見交換を行い、より良い博物館運営についてのフィードバックをした。